南隆雄コレクション・サーベイ
―北海道立北方民族博物館

会期　2019年10月26日[土]―11月10日[日]

会場　北海道立北方民族博物館ロビー

観覧料　無料

休館日　10月28日[月]

Survey - Hokkaido Museum of Northern Peoples

■主催　北海道立北方民族博物館／一般社団法人 AIS プランニング ■コーディネート　さっぽろ天神山アートスタジオ
■協力　株式会社 東京スタデオ、倉地宏幸 ■助成　公益財団法人 花王芸術・科学財団、公益財団法人 野村財団
■協賛　■支援　文化庁「平成 31 年度文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業」

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

アートギャラリー北海道
ART GALLERY HOKKAIDO

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

NOMURA 野村財団

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
平成31年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

会場
北海道立北方民族博物館
開館時間 9:30－16:30
〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
TEL 0152-45-3888
女満別空港から約17km
JR網走駅から約5km
網走バス市内観光施設めぐり線で約15分
バス停「北方民族博物館前」下車すぐ
タクシーはJR網走駅から約10分
無料駐車場有り
常設展は有料
http://hoppohm.org/index2.html

"Collection Survey - Hokkaido Museum of Northern Peoples", 2019, Production video still, Courtesy of the artist and Sapporo Tenjinyama Art Studio.

Takao Minami: Collection S

木製仮面、木偶（北海道アイヌ） クマ送りのクマの表現（サハリンアイヌ） イラク（ウイルタ） 儀礼用ビーズ装飾前掛、細密絵製バケット、瀬踏（ニブヒ） メンコ製儀礼用具（樺太） （モンゴル） ビーズ装飾前掛、日

解説会 ―アーティスト・トーク

日時　2019年10月27日［日］13:30－15:00
会場　北海道立北方民族博物館 講堂
登壇者　南 隆雄（アーティスト）、笹倉 いる美（北海道立北方民族博物館 学芸主幹）
ゲスト　天野 太郎（札幌国際芸術祭2020統括ディレクター、横浜市民ギャラリーあざみ野主席学芸員）
参加無料、要電話予約　TEL 0152-45-3888

本展では、南隆雄がさっぽろ天神山アートスタジオ 2018年冬季招聘レジデンスプログラムとして網走市に約2ヶ月滞在し、北海道立北方民族博物館の収蔵品を題材に制作した最新のビデオインスタレーションを発表します。この作品は、博物館収蔵品そのものと、それらを撮影して再構成した映像、そしてコンピュータ制御された監視カメラで構成されます。ここで南が試みるのは、北方文化圏における視覚要素の変容を「グラデーション」として描くことです。例えばアイヌの衣服の文様とイヌイトの彫刻、この二つを映像のなかで併置することで、いまここにある実物の収蔵品が、場所と時間を超えて、イメージの思いがけない連鎖をうみだします。加えて民族資料と監視テクノロジーの代表ともいえるロボットカメラの、この一見意外な、しかし博物館ではよく見かける組み合わせがもたらすイメージの現在性。これらすべてが館外の北海道の景色とも呼応し、ひとつの美術作品となります。

さっぽろ天神山アートスタジオ
札幌市が旧札幌天神山国際ハウスとして利用していた宿泊施設を、札幌国際芸術祭の開催を機に、アートと市民交流の場としてアーティスト・イン・レジデンス拠点に再活用することを決め、2014年にオープンしました。アーティスト・イン・レジデンス拠点としては、ひとつの建物の中に3つの機能が共存する新しいタイプの文化芸術施設です。